

4月～5月上旬の農作業

寒暖差の激しい時期になりました。霜注意報などの気象情報に留意して、作物の管理に万全を期しましょう！

種まき	定植	栽培のポイント
<p>【果菜類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サヤエンドウ <p>【葉菜類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・シュンギク ・ニラ <p>【根菜類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジン ・ゴボウ 	<p>【葉菜類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レタス ・ハクサイ ・キャベツ ・ブロッコリー <p>【根菜類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレイショ 	<p>【ニンジンの種】</p> <p>ニンジンは根の短いものほど早生で、4～7月頃まで播けます。肥料やけを起こしやすく酸性に弱いので、完熟たい肥と苦土石灰及び化成肥料を用いて床を作り、一週間後には種します。</p> <p>i) 種まき前日に畑に水をまいて、土を適度な湿度に保ちましょう。</p> <p>ii) 発芽を良くするため、一晩水に浸した後（写真：左）、湿らせた布に広げて（写真：右）、しばらく日陰におくと良いでしょう。</p> <p>2条播きの場合、条間20cm程度ですじ播きし、5mm程度薄く覆土します。発芽するまでの間、土壌乾燥を防ぐために切りワラや黒い寒冷紗などで床上を覆いましょう。</p> <p>は種後10日程度で発芽し、ゆっくりと生育して90～120日後に収穫期を迎えます。</p>



うどんこ病の発生に注意！

乾燥傾向が続いています。ハウス内で定植したばかりの一部作物でうどんこ病の発生が認められました。うどんこ病は乾燥傾向で気候が推移した場合に発生しやすいため、ハウス栽培の作物では、環境管理（かん水量、サイドの開閉など）に注意が必要です。また、リンゴでは花・葉そうが病気(右写真)にかかり易くなるため、園内を巡回し被害花・葉そうをみつけたら切除し、薬剤散布を行いましょう。



リンゴのうどんこ病

土づくりの効果（シリーズ最終回）

〔 堆肥等有機物の施用効果 〕

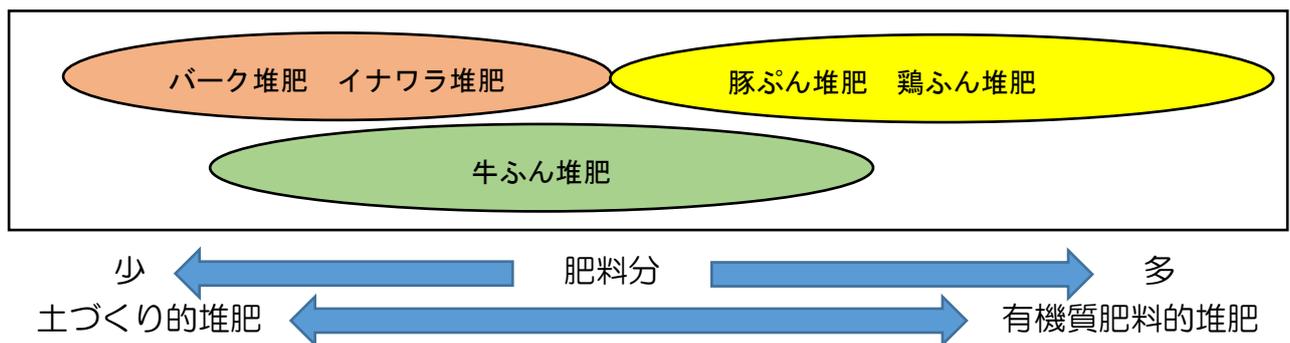
前回は、堆肥などの有機物を投入することにより“団粒構造”ができ、団粒と団粒とのすき間に気相や液相が発達し、作物生産に適する土壌が作られることを学びました。これを、堆肥等有機物の投入による土壌の物理性改善効果と言います。この他、堆肥等有機物には、鉄、亜鉛、マンガン、ホウ素など作物生育に必要な微量養素も含まれているため、総合的な養分供給源になります。また、堆肥等有機物自体が様々な微生物の餌になるため、根の周りの土壌微生物数が増加し、これが防波堤となって病原菌の根圏への侵入を遠ざけるため、作物を病原菌から守る効果が増大します。

〔 堆肥の種類と特性 〕

堆肥は、下図のように種類によって肥料成分の多いものと少ないものがあります。

※主な堆肥の特色は以下のとおりです。

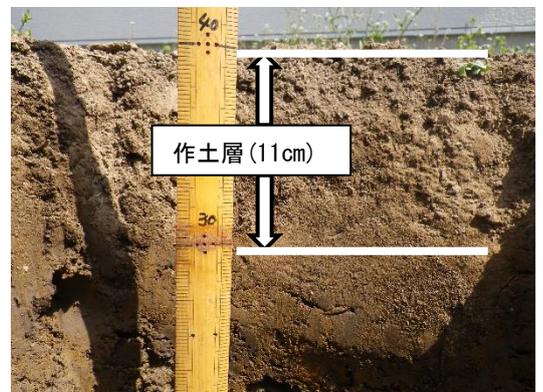
- ◆牛ふん堆肥 ⇒ 加里がやや多く、有機物分解はやや遅い
- ◆豚ふん堆肥 ⇒ リン酸が多く、有機物分解はやや早い
- ◆鶏ふん堆肥 ⇒ リン酸が多く、有機物分解は早い
- ◆バーク堆肥 ⇒ 窒素、リン酸、加里全て少なく、有機物分解は遅い



豚ふん堆肥や鶏ふん堆肥は肥料的効果が大きく、牛ふん堆肥やバーク堆肥は土づくりの効果が大きいものと認識して、目的に合った堆肥を選択し投入量も考慮しましょう。

〔 作土層について 〕

耕起が行われている土層(右写真)のことで、作物の根を支えるとともに養水分の供給の場となります。このため畑作物の作土層は深い方が生育が安定します。目的とする作物の種類によって異なりますが、畑作物の作土深は一般に15~20cmの場合が多く、25cmを目標としたいところです(ダイコン等根菜類の場合は30cm以上あることが望ましい)。元が田んぼで水はけが悪かったり作土深が浅いところでは高畝にするなど工夫が必要です。休耕期には堆肥等有機物のすき込みと同時に少しずつロータリー等で深耕していきましょう。一度、ご自身の畑を掘って作土層の深さを確かめてみると良いでしょう。



作土層 …団粒構造があり容易に指が入る膨軟な部分

あさつゆ連絡先

電話番号：0268-41-1062

FAX：0268-41-1063

技術事項作成協力

上田農業改良普及センター（木曾）

電話番号：0268-25-7156（直通） FAX：0268-23-2161